

平成26年度研究成果中間報告書《平成26年度指定教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	63	都道府県・指定都市名	岡山市	研究課題番号・校種名	3(4)小学校
				領域名	E S D
研究課題	新学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究 (4) E S Dを学校全体で体系的に推進するために、各教科等の連携により、持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を児童生徒に身に付けさせるための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名 (児童生徒数)	おかやまけん おかやましりつさんぐんしょうがっこう 岡山県 岡山市立三 勲 小学校 (553人)				
所在地 (電話番号)	岡山県岡山市中区徳吉町一丁目1-21 (086-272-3141)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.city-okayama.ed.jp/~sankuns/				
研究のキーワード	ふるさと学習 地域 伝統文化 能学習 問題解決的な活動				
研究成果のポイント	○自分の思いや考えを伝え合うことや様々な角度から物事を考え自分とは異なる立場の考えを尊重する大切さへの気付き。 ○見通しをもった体験学習や調べ学習。 ○地域の行事に積極的に参加。 ○伝統文化を受け継ぐことの大切さを実感。 ○つながりを意識した授業づくり				

1 研究主題等

(1) 研究主題

「持続可能な社会づくりに向けて主体的に取り組み、ともに育ち合う児童の育成」
 ～郷土の文化と日本の伝統文化に着目した授業の創造～

(2) 研究主題設定の理由

本校では、“人・自然・文化”を題材とした学習に継続して取り組み、地域における環境問題や人権、歴史、文化について学ぶ学習を「ふるさと学習」と称している。第6学年になると、日本の伝統文化であり、ユネスコの無形文化遺産に登録されている能楽の発表会を学区に隣接する岡山後楽園の能舞台で開催している。この学習は、6年間の「ふるさと学習」の集大成として、地域や地域の文化財を守る意識とともに、伝統文化を継承する担い手を育てるよい機会と考えている。この学習を通して日本の伝統文化に目を向けるだけでなく、さらに国際的視野を広げる児童の育成を図る。また、総合的な学習の時間と各教科等との関連を図り、各教科等で身に付けた知識や技能を適切に活用して、自ら課題を見付け、追究し、解決していこうとする主体的な思考力や判断力を養うとともに、児童自ら持続可能な社会づくりに関する価値観と実践力を身に付けていくことができるようにする。

以上のような児童の育成を図るために、以下の四つの力を各教科等の学習や総合的な学習の時間を通して身に付けることができるようにする。

- ① お互いを比較して、それぞれのよさや共通性、自分とは考えや立場が違うものを尊重する力

- ② 伝統・文化を理解して、自分の生活に生かす力
- ③ 異年齢、異世代と進んで関わることのできる力
- ④ つながりを実感し、自分のこととして考え、これからの在り方を考える力

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組

平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○研究主題，研究内容についての共通理解 ○ESD とその視点に立った学習指導についての共通理解（岡山大学教授 住野好久氏） ○ふるさと，伝統文化に関わる学習一覧表作成 ○ESD，「ふるさと学習」に関わるアンケート作成，実施 ○公開授業第4学年「『ふるさと三勲』をつくろう」（教育課程調査官 村山哲哉氏） ○後樂園での能学習の発表 ○公開授業第1学年「むかしあそびをしよう」 ○公開授業第5学年「岡山のぼっけえええとこ発見 『桃太郎伝説をさぐれ』」 ○公開授業第2学年「もっとまちの人となかよくなるろう～わたしたちのまちのよさを伝えよう～」 ○公開授業第6学年「文化で歴史をふり返ろう」（教育課程調査官 村山哲哉氏） ○公開授業第3学年「三勲の宝物を見付けようⅡ」 ○ESD，「ふるさと学習」に関わるアンケート実施，分析 ○授業実践のふり返りとまとめ ○2年次の研究計画の検討
----------------	--

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

○問題解決活動の充実

各教科の授業で、児童主体の問題解決的な活動を行い、1授業の中に数回のペア・グループ活動を取り入れる。ペア・グループ活動では、自分の思いを伝えたり友達の考えを聞いたりするだけでなく、他者の意見や情報をよく検討・理解して取り入れ、よりよい考えを生み出すことのできる場を設定する。

○育成する力に基づく指導内容の一覧表の作成

各学年のどの教科・単元で「ふるさと学習」につながるのか、研究主題にせまる四つの力を身に付けることができるようにするのかを整理し、マトリックスの表にまとめ、その実践を行う。

○総合的な学習の時間の見直し・充実

総合的な学習の時間では、はじめに自分たちの地域や地域の文化財を守る意識とともに、伝統文化を継承する担い手を育てる「ふるさと学習」をESDの中心とし、各学

年のつながりを考えながら、内容の見直し・充実を図る。また、児童が主体的に活動できる参加体験的な学習を取り入れ、地域の方との交流を今以上に密にする。

○公開授業での実践発表

授業公開は、全体公開授業は各学年部で1回、それ以外の学年は学年部内公開授業を行う。どの公開授業も「ふるさと学習」、またはそれにつながる各教科等のものとする。全体公開授業は外部講師を招聘し、全体協議会を設け、指導助言をいただくと同時に全職員の研究主題にせまる授業実践の共通理解を図る。

(2) 具体的な研究活動

1年：生活「みんないっしょに」

地域の高齢者に昔遊びを教えてもらい、さらに教えてもらったことを幼稚園の人に教えた。

2年：生活「わたしたちのまちをたんけんしよう」「もっとまちをたんけんしよう」

地域を探検したり、インタビューをしたりして、自分たちの地域を理解するとともに、分かったことを1年生に知らせた。

道徳「金ホテル」

地域の川にもホテルがいることにつなげて考えることによって、地域の川をきれいに大切にしていこうという思いをもった。

3年：総合的な学習の時間「三勲の宝物をさがそう」

地域を探検したり、インタビューしたりして、地域を大切に思い活動している人々の存在やその思いに触れ、愛着を感じた。

道徳「かねつきどう」

主人公のように地域のために活動している人々に目を向け、自分たちの登下校が安全にできるように見守ってくださっているパトロール隊の方々などに改めて感謝の気持ちを持ち、自分たちのできることを考えた。

4年：総合的な学習の時間「『ふるさと三勲』をつくろう」「共に生きる」

地域の特徴や問題点に目を向け、地域や社会がもっとよくなるためにはどうしたらよいか、自分にできることはないかという思いを持ち、実践した。

社会：「水はどこからどこへ」「ごみはどこへ行くの」

「考えよう！これからの岡山県」

自分たちの周りにある施設や仕組みは、自分たち一人一人の毎日の生活に深くかかわっていることを理解し、これからの自分の暮らし方について考え実践し、学習発表会で発信した。

5年：総合的な学習の時間「日本のぼっけえええとこ発見」

後樂園・岡山城を見学したり、観光ボランティアの方の話を聞いたりして、歴史や伝統、そのよさについて理解を深め、「桃太郎伝説」を基に香川県の小学校とお互いの県のよさについて情報交換した。

国語：「グラフや表を引用して書こう」

必要なグラフや表を選択し、そのどの部分を根拠にどんな考えをもったのか、分かりやすく表現する方法を理解し、「桃太郎伝説」調べに活用した。

6年：総合的な学習の時間「歴史と私たちのつながり～伝統文化をさぐる～」

ボランティアティーチャーをお招きして室町体験をしたり、外部講師に継続的に来ていただき能楽の体験をしたりした。11月には後樂園の能舞台での発表、ESDに関するユネスコ世界会議「教師教育に関する国際会議」に参加している方々を学校にお招きしての発表を行った。また、能学習で身に付けた礼儀作法をあいさつや姿勢など普段の生活に生かした。

社会「文化で歴史をふり返ろう」

日本の歴史を伝統・文化の視点でふり返り、その変化や日本らしさ、伝統の継承について理解を深めるとともに、今まで継承された伝統文化を自分たちも受け継いでいきたいという思いをもった。

特別支援学級

学級活動・自立活動・音楽

岡山「備前太鼓唄」に取り組み、保護者や学校、ESDに関するユネスコ世界会議「教師教育に関する国際会議」に参加している方々を学校にお招きした場での発表を行った。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

各教科の授業や総合的な学習の時間で児童主体の問題解決的な活動を行い、1授業の中に数回のペア・グループ活動を取り入れることで、児童は自分の思いや考えを伝え合うことや様々な角度から物事を考え自分とは異なる立場の考えを尊重する大切さに気付いてきた。また、目的意識や相手意識をはっきりさせることで、見通しをもって体験学習を行ったり調べ学習を進めたりすることができるようになった。さらに「ふるさと学習」に取り組み、地域や伝統文化への理解を深め愛着をもつことで、地域の行事により積極的に参加する姿や伝統文化を受け継ぐことの大切さを実感した姿が見られるようになった。

教師の立場では、単元計画を立てる際に四つの力を意識したり、学習し身に付けた力を活用する場を設定したり、他教科や他学年とのつながりを考えたりして授業づくりをするようになった。また教師自身が地域の歴史や人々とのつながりに興味をもち、地域の行事に参加したり人材発掘に取り組んだりした。

(2) 課題

12月に行ったESD「ふるさと学習」に関わるアンケート結果から、「自分の意見や行動によって周りの様子が変わると思う」という項目の伸びは見られなかった。これは自分が様々なものやこととつながっているという実感は高まったものの、自分から積極的に関わって地域をよくしていこうという意識までには至っていないからだと考えられる。つまり、頭では理解しているが、自分が地域の一人であるという意識が薄いと思われる。そこで、全体のテーマの中で、児童一人一人が追究したい課題を設定し、探究し、それらについて意見交換や話し合いをした結果、分かったことや意識の変容を実践につなげることのできるような単元計画の見直しが必要である。そのためには、児童にとって魅力があり、適度な難易度のテーマ設定と日々の問題解決活動の充実が不可欠である。

評価については、アンケートによる児童の意識の変容だけでなく、教師自身が児童の言動を見取り評価することができるように、四つの力に対応した評価規準を設定する必要がある。また、評価規準の設定を通して、めざす子どもの姿と四つの力を明確にし、共通理解して取り組んでいく。

(3) 研究2年目へ向けての取組

- 「ふるさと学習」の単元構成の見直し
- 四つの力の見直しとその評価の在り方
- 四つの力を位置付けた生活科・総合的な学習等の単元構想の作成
- 地域のゲストティーチャーや外部の人材等とのさらなる発見・発掘